

パン用春まき小麦「はるきらり」の育て方

～新しい道産小麦品種でおいしいパンを！～

1. 新しいパン用小麦「はるきらり」☆

「はるきらり」は、穂発芽耐性、倒伏耐性に優れ、かび毒であるデオキシニバレノール(DON)の汚染が少なく、また、製パン性にも優れた、新しい道産小麦品種です。



「はるきらり」の草姿
(2007年中央農試)

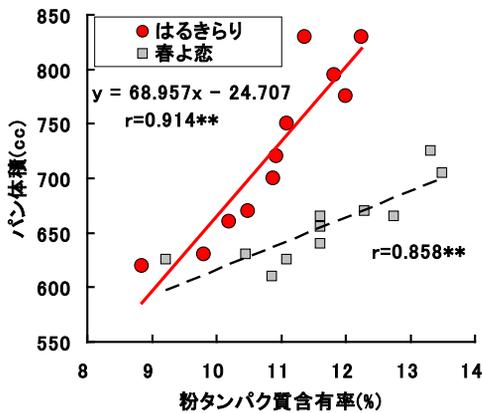
「はるきらり」の生育特性(追肥なし、道央・道北地域、N=17、2004-07年)

品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)	タンパク 質含有率 (%)
はるきらり	6/20	8/4	475	45.2	10.8
春よ恋	6/22	8/3	450	41.4	11.7

2. 春まき栽培～適正な窒素施肥で高品質・多収を目指しましょう～

- (1)倒伏耐性に優れるため、基肥量を増やせます。
- (2)タンパク質含有率がやや低いので、止葉期以降に追肥を行い、品質を確保します。

春まき栽培での窒素施肥法



タンパク質含有率とパン体積
(2005年上川農試産)

基肥窒素量	「春よ恋」施肥量に3kgN/10a程度増肥。 (上限は12kgN/10a)	
	登熟日数が短く 寡雨条件になり やすい地域(上川 地域など)	左以外の 地域
止葉期	—	4kgN/10a (硫安施用1回 または 2%尿素葉面散布4回施用)
開花期以降	3kgN/10a (2%尿素葉面散布3回施用)	

※播種期、播種量等については、現行の春まき小麦栽培法に準じます。

3. 初冬まき栽培～「はるきらり」も初冬まき栽培が可能です～

春まき栽培同様、タンパク質含有率が低くなるため、開花期以降に追肥を行います。

初冬まき栽培での窒素施肥法

融雪期	止葉期	開花期以降
10kgN/10a 施用	6kgN/10a 施用	3～4kgN/10a (2%葉面散布3～4回施用, 春まき栽培に準じて下さい)

※播種期、播種量等については、現行の春まき小麦栽培法に準じます。

※初冬まきについては、当面の施肥体系です。

上川農業試験場研究部畑作園芸科
〒078-0397

北海道上川郡比布町南1線5号

TEL: 0166-85-2200

e-mail: seika@agri.pref.hokkaido.jp